

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | | | |
|------|---------------------|-----|-------|-------|------|-----------|----------|
| ボール名 | T10 Limited Edition | | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル | |
| RG | 2.540 | △RG | 0.052 | ●ピン | ★PAP | ✕CG | ■バランスホール |

テストボール：T10 Limited Edition

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：ROGUE BLADE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

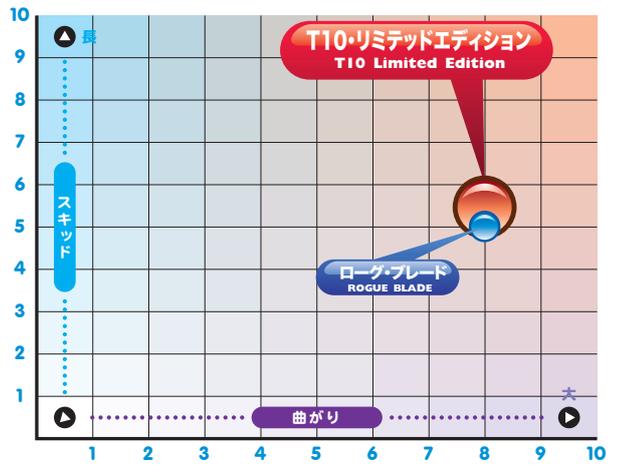
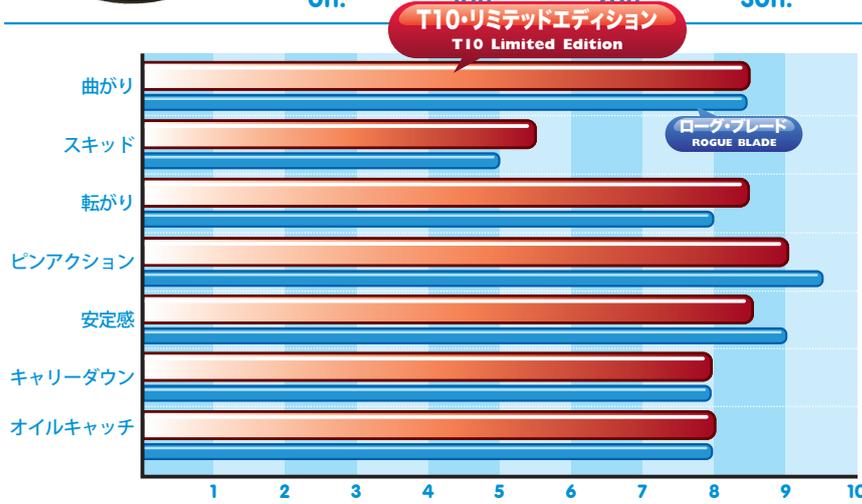
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社が10周年を記念して作成してきたT10。この特別な機会にMOTIV社が創立し始動間もない頃発売したTX1。そのTX1に採用されたThrust CoreとレトロなNeoMarkグラフィックを使い、当時の思いを最新のカバーストック技術でアップグレードして、一見レトロ風な外見でもあらゆる環境に対応できる多才さとコントロール両方を持ち合わせたボールに仕上げました。

初期MOTIV社の代表的なカバーストックはMOTIVatorというその当時流行であったオイルを吸いにくい耐吸油性のカバーで、その当時のパフォーマンスと比べるとその歳月の中で同じコアでもここまでイメージが変わるものかと、カバーストックの重要性は知りつつも、改めて再認識させられるほどです。

久々お目見えしたThrustコアは適度に高いRGとディファレンシャルを備えたコアで、強めのバックエンドながら滑らかに動くベンチマークの役割を担うのに最適です。

Coercion MFS Reactive (Medium Friction Solid) はまさにミディアムコンディションに焦点をあてたカバーストックで、コア・カバーともにミディアム領域でベンチマークの役割を果たすために作成された意図が伺えます。

実際に投球するとCoercion MFS Reactiveは手前で噛み過ぎることもなく、でも滑ることもない非常にバランスの良いカバーでMOTIV社の強いカバーは必ずMidでの掴みが強くなるほど強いカバーの印象が強く、スムーズに直進して曲がりが遅く(噛み具合が遅く)感じほどミディアムよりのパフォーマンスだということが一目瞭然とわかります。

そのT10は特にMidでの噛み上がりが少なく、スムーズな直進性と1テンポ遅れて出てくるバックエンドリアクションがポケットへの入射角を容易にしてくれます。角度がある曲がりが出ながら扱い辛くないイメージを持てるのもベンチマーク的な役割をもつボールの特徴でもあり、このT10の武器だと思えます。

特記事項

一言で「ベンチマーク」的な役割のボールです。このボールを基準に使い、これよりも曲がりがないのであればJACKALやTRIDENT。走りが欲しい場合にはPARANOIAやVENOMで良いでしょう。